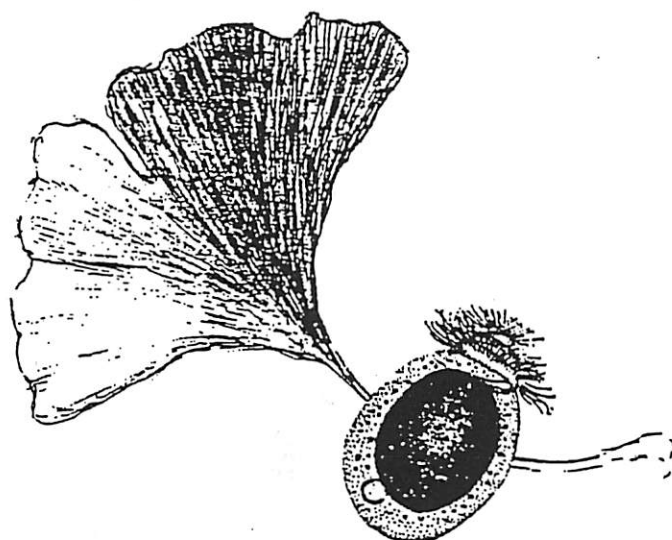


資料 9 . Plant Morphology 創刊号 p.1-5 (1989年)

Vol 1 (1989)

No 1

PLANT MORPHOLOGY



The Japanese Society of Plant Morphology

日本植物形態学会の設立と
会誌「Plant Morphology」の発刊に際して

会長 原 襄

数年間にわたる多数の方々のご協力により、今年（1988年）1月に日本植物形態学会が設立されて、10月12日には岡山で第1回の大会と総会が開催され、予想を上回る盛会となりました。

本学会は植物の形態・構造、そしてその機能に関連した分野の研究者が、新しい技術や思考の流れを積極的に論議し、実質的な相互の交流の場を持つとうという趣旨をもって、多数の方々のご賛同を得て発足いたしました。まずは今年の大会でその趣旨が確認されたように感じております。しかし、未だに本会に入会されていない植物形態学に関連した多数の研究者がおられます。本会の発展のためには、さらに数多くの方々に入会していただき、交流の場を大きく広げていくことが望まれます。快くご入会いただける方々も多いことと思われまので、会員の皆様から積極的に入会のお勧めをしていただきたく、お願い申し上げます。

さて、会員相互の交流のためには大会は大切な行事ですが、もうひとつの学会の柱は会報です。今回の総会では、本学会の会誌として「Plant Morphology」を発刊することが決定され、その投稿規定が承認されました。そしてここに、その第1巻第1号が出版される運びとなりました。

「Plant Morphology」には、原著論文として英文、和文の短報形式の論文を投稿できます。奮ってご投稿ください。この会誌が研究の推進に役立ち、論文を通して会員相互の理解が高まれば幸いと思っております。

我が国ではすでに「Botanical Magazine, Tokyo」ほか、植物学関係の多くの学術雑誌が出版されています。「Plant Morphology」は、これらの出版物と競合するということではなく、相補的に我が国の植物形態学の推進に役立つことを目指しております。このことをご理解のうえ、本誌の充実・発展にご協力いただきたく、お願い申し上げます。

日本植物形態学会は、1985年に新潟で開催された日本植物学会大会の際に、植物形態学の将来についての討論がおこなわれて以来、多数の方々のご協力を得て設立に漕ぎつけることができました。以下に簡単にその設立までの経緯をまとめさせていただき、それぞれの節目に格別のご協力をいただいた方々への感謝の気持ちを表し、さらに皆様とともに本学会の発展を期して参りたいと存じます。

日本植物形態学会設立までの経緯

1985年10月 2日 日本植物学会大会（新潟）で、(1) シンポジウム「植物形態学の現状と展望—形なりたち」が開催された。(2) 「植物形態学の将来」について討論が行われた。

1986年10月 7日、 8日 日本植物学会大会（鹿児島）で、(1) シンポジウム「構造の複製と分化」が開催された。(2) 日本植物形態学会設立準備委員会の発足が決定された。(3) この大会の懇親会のあと、初回の設立準備委員会が開催された。

1987年 3月14日、15日 岡崎の基礎生物学研究所で、設立準備委員会委員を中心にした研究会が開催され、事務的な段取りが整理された。

1987年11月26日 日本植物学会大会（筑波）で、(1) シンポジウム「細胞構造の理解は変わる—蛍光顕微鏡の発展と応用」が開催された。(2) 設立準備委員会が開催された。(3) 日本植物形態学会を、1988年 1月 1日から発足させることが決定された。

1988年 1月 1日以降は、しばらくのあいだ設立準備委員会が学会の事務を代行しておりましたが、3月には役員選挙が行われ、4月からは学会の態勢が整い、10月12日には第1回の大会（岡山）が開催される運びとなりました。また、今年（1988年）の日本植物学会大会（岡山）では、シンポジウム「植物形態研究の新展開から」が開催されました。

なお、今回は第1回大会であり、すべてはじめての試みということで、地元、岡山大学の武丸恒雄氏、鎌田 堯氏、神田東作氏ほかの方々には並々ならぬお世話をいただきました。ここに厚く感謝の意を表したいと存じます。

以上

日本植物形態学会事務報告

1. 設立: 昭和63年1月に日本植物形態学会が3年間の準備委員会による準備過程を経て、発起人の趣意書に賛同する155名の会員で発足した。本学会則は、昭和62年11月26日(木)の日本植物学会第52回大会(筑波大学)の関連集会で決定されている。

同年3月19日、会長および評議員の選挙開票を基礎生物学研究所で田中健治氏立会いの下で行なった。投票数は107票であった。その結果、会長に原襄氏と下記の評議員10名が選出された。

3月26日、原会長、黒岩、新津両評議員および田中健治氏が東京大学理学部黒岩教室で会合を開き、つぎの役員を内定した。

会長	: 原 襄	評議員 (アイウエオ順)	
庶務幹事	: 新津 恒良	伊藤 道夫	植田 勝巳*
会計幹事	: 長船 哲斉	黒岩 常祥	駒嶺 稔*
会計監査	: 西田 誠	相馬 研吾	竹内 郁夫*
編集委員長	: 田中 健治	新津 恒良	福田 泰二*
編集委員	: 鈴木 三男	堀 輝三	村上 悟*
〃	: 野口 哲子		

*印の方は、会則の申し合せにより引続き2期選出されることができない評議員である。

庶務・会計両幹事と編集委員長は会則11条により、会長が委嘱した。会計監査と編集委員については同条規定にしたがい、郵送により評議員会にはかり、その同意を得て委嘱した。(役員任期は2年である)。この結果、4月5日、準備委員会は任務を完了し、学会事務に移行した。

また、当面の事務局、会費振込口座および会誌編集はつぎのように決定された。

事務局

〒182 東京都調布市国領町8-3-1

慈恵医大・生物学教室内

日本植物形態学会

庶務幹事: 新津 恒良

事務取扱者: 花野万里子

会費振込口座

郵便振替口座 東京9-362060

日本植物形態学会

〒180 東京都新宿区新宿6-1-1

東京医大・微生物学教室内

会計幹事: 長船 哲斉

会誌原稿送付先

〒466 名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学医学部病態制御研究施設

医真菌研究部門

編集委員長: 田中 健治

2. 会員数：通常会員数は、発会当初155名であったが三井邦男氏が逝去され、またその後の入会者により10月末日現在209名である。

3. 第1回大会：第1回大会は日本植物学会第53回大会の前日の昭和63年10月12日（水）に岡山大学教養部および学生会館で行なわれた。参加者は106名であった。第1回の大会のため、今回に限り会長と在京評議員が大会準備を行い、会場については武丸恒雄教授をはじめ岡山大学の会員のご援助を頂いた。

11時から13時まで第1回の評議員会を同大学会議室で、13時から14時まで竹内郁夫評議員を議長として総会を行なった。会長挨拶、庶務・会計報告につづいて大会、学術会議関係の報告があった。続いて審議事項に移り編集委員長から会誌「Plant Morphology」の投稿規定が提案され、承認された（評議員会では時間をかけて討論し、原案が作成された）。また1989年度からの年会費を値上げして2,000円とする案が提案され、承認された。次回大会は仙台で開催し、東北大学の駒嶺穆氏のお世話で行なうことを決定した。会長が所用で退席したあとは黒岩評議員が代行した。

14時から同会場で講演4題（別紙プログラム）が植田勝己、福田泰二両氏の座長で行なわれ、活発な討議があった。15時から会場を学生会館に移し、30題の展示講演（別紙プログラム）が行なわれ、予定時間を延長して熱心なディスカッションが続いた。会場には参加会員全員が参加し、茶菓の用意もあって懇親を深めながらの討論で18時に解散した。

4. 設立準備委員会の解散：昭和60年10月2日に本学会設立のために当初世話人7名で趣意書案などの検討をはじめたが、61年10月8日に設立準備委員会がつぎの15名で本格的な準備をはじめた。

原 襄（東大・教養：委員会代表）〈以下アイウエオ順〉
植田 勝己（奈良女子大・理） 小野 莞爾（熊本大・理）
加藤 雅啓（東大・理） 黒岩 常祥（基生研・細胞生物）
佐藤 利幸（北大・低温研） 三戸 信人（山口大・理）
田中 健治（名大・医） 田中 隆荘（広島大・理）
長田 敏行（基生研・細胞生物） 新津 恒良（慈恵医大）
福田 泰二（千葉大・教養） 堀 輝三（筑波大・生物科学）
増田 恭次郎（富山大・理） 村上 悟（東大・教養）

前記の通り本学会が63年1月1日に発足したが、会長、評議員選挙が終り、役員が決定した段階で設立準備委員会はその役割を終り解散した。

（庶務幹事：新津 恒良）

5. 学会収支報告：昭和63年1月1日から10月8日までの収支決算はつぎの通りである。
 (第1回大会総会で報告した。)

決 算 報 告 (単位 円)

収 入	3 6 8 , 1 3 6
支 出	4 4 , 3 1 4
収支差額	3 2 3 , 8 2 2

〈収入明細〉

会費収入	165名×1.000	165.000
	前受会費 13件	13.000
寄付金	3社*	180.000
	会員からの寄付(3名)	10.000
雑収入	利息	36
	口座開設費	100
		388.136

〈支出明細〉

通信費	22.764
印刷費	9.960
雑費	11.590
	44.314

預金口座名 三井銀行四ッ谷支店(普通) 5 3 4 3 9 9 8
 郵便局 新宿抜弁天 9 - 3 6 2 0 6 0

*寄付金を頂いた会社はつぎの通りです。改めて御礼申し上げます。
 セイシン製菓、ヤクルト本社、日新EM社

お願い：今後とも賛助していただける団体・会社をご紹介くださるよう会員各位にお願
 いいたします。

6. 第1回大会収支報告：第1回大会は昭和63年10月12日(水)に行なわれた(記事3参
 照)。

決 算 報 告

収 入	106名×2.000	2 1 2 , 0 0 0
支 出		9 9 , 1 7 0
〈内訳〉	1. ポスターパネル使用料 30×@1.500	45.000
	2. アルバイト謝金 6名×@4.000	24.000
	3. 雑費	30.170
収支差額		1 1 2 , 8 3 0

(会計幹事：長 船 哲 斉)